

「イギリス文学史」の授業評価報告書

英語教育講座 竹永雄二

1. 授業の目的と内容

1) 授業の目標

世界言語となった英語がどのように発展して来たかを理解するために、イギリス文学の歴史についての基本的知識を得る。特に **Shakespeare** (劇)、**Dickens** (小説)、**Wordsworth** (詩) の主要な作品を体験することにより、英語の素晴らしさを感じることができるようになる。

2) 到達目標

(1) 古代から現代まで、各時代の文学思潮、主要な作家の代表的作品、作品内容とその評価について説明できるようになる。

(2) イギリス文学の名作（今回は **Pride and Prejudice by Jane Austen**）を読み、作品内容に深く心を動かすことができる。

(3) 読んだ作品について自分の意見を適切に述べることができる

3) 授業の内容

(1) **Peter Rabbit** から **Harry Potter** まで代表的な児童文学作品の一部を原文で読む。その後朗読し合うなど簡単な活動を行った。

(2) 各時代の代表的な作家、作品について英文抜粋資料を解説。

(3) 代表的な作品の原文を引用しながら、主題や言語的特色について解説を加える。

2. 授業の工夫

1) 授業の進め方

受講者は英語専修を中心に17名。イギリス文学に親しみを持ってもらうため及び教材化の可能性を探求する目的で、授業開始後約10分間ぐらい、イギリス児童文学の名作の一部を読む時間に充てた。**Peter Rabbit** は中学校の英語教科書にも話題として出ているので関心を引くことができ

たように思える。今後十分準備ができれば、文学史の中に本格的に取り入れて、扱ってみたいと考えている。英語教材としての可能性と子供観の研究という点で英語専修の学生にはふさわしい領域ではないかと予測している。授業の中盤は英文学史の英語の抜粋を日本語に翻訳しながら、各時代の代表的作家の作品内容を丁寧に解説するようにした。授業の後半では可能な限り作品を身近に感じてもらえるように、作品の舞台となった場所、例えばブロンテ姉妹の作品が書かれたヨークシャーなどをビデオで紹介した。最後にその時間で扱った作家の代表作品を取り上げ、原文を引用しながら、作品の一つの解釈の仕方について解説した。

2) 指導上の工夫

今回の目標は授業内容の体系的、丁寧な解説であったので、学生にとってはかなり一方的な、単調なものであったと思われる。そのような反応は十分予測した上で、文学の原点に返り十分な納得いく（少なくとも授業者にとって）説明を行うということにあえてこだわってみた。この点は受講生の評価は別にして、一貫して最後までやり通すことができたのではないと思う。また説明が難しく扱うことを避けてきた宗教詩であるとか、ロマン派のワーズワスの詩なども取り上げ、丁寧に解説するよう心がけた。授業で扱う作品は英語としては難解であるので、学生の授業時間外学習のために何を課題とするか悩んだが、作品プロットの英語を読ませることを思いついた。課題学習をどのように確認するかの手法をうまく考案すれば英語力の活用及び作品理解のためにうまく機能するかもしれないという感触を得ることができた。

3. 学生の評価と今後の改善に向けて

授業の 15 回目に、授業評価アンケートを行った。
アンケート内容と結果は以下の通りである。

1) アンケート内容と結果（回答者 15 名）

学部 DP に関連しての授業評価

- ①向上していない
- ②どちらかと言えば向上していない
- ③どちらかと言えば向上した
- ④向上した

1.教科・教職に対する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を習得している。

①	②	③	④
0	2	9	4

2.学校現場で生じている様々な教育課題について論じ、適切な対応を考えることができる。

1	9	3	2
---	---	---	---

3.子供の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができ、個に応じた指導や説明ができる。

2	4	7	2
---	---	---	---

4.実践を省察し、自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた学習ができる。

1	6	6	2
---	---	---	---

5.教職に対する使命感や責任感を身につけ、教育的愛情を持って児童生徒に接することができるとともに、多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。

2	4	7	2
---	---	---	---

-----自由記述-----
授業者の作った調査項目への評価（一部）

- ①強くそう思う
- ②まあそう思う
- ③どちらとも言えない
- ④あまりそう思わない
- ⑤全くそう思わない

1.教員の説明の仕方はわかりやすかった。

①	②	③	④	⑤
7	6	2	0	0

2.教員の教材の使い方は効果的だった。

6	6	2	0	1
---	---	---	---	---

3.教員は授業を改善するように努力した。

3	7	5	0	0
---	---	---	---	---

4.この授業の目的・目標は達成された。

4	9	1	1	0
---	---	---	---	---

-----自由記述-----

授業の良い点

・たくさんのイギリス文学に触れることができたので、とても楽しかったです。イギリス文学を読みたくなりました。
・まんべんなくイギリス文学に触れることができ、作品に興味を持つことができとても楽しかったです。学生が作品を紹介したり、授業外学習として自主的に読むことも作品理解につながりました。

授業の改善点

・時間の都合でスライドの内容を把握しきれないことがあって残念でした。スライドをみて日本語訳を写すだけにしてももったいないので、授業外学習をさせることにもっと強制力を持たせてもよいかと思います。
・文学史の知識を身につけること、文学そのものを味わうこと、両方するのは15回では難しい！
・一方的な説明が多かった気がします。

2) 反省と今後の課題

学部 DP との関連では、知識・理解の項目である 1 以外は内容的に関係が薄い。学生も評価するとき困ったと思われるが、かなり好意的な評価で感謝。独自の質問調査項目では、今回特に力を入れたのが丁寧な説明力であったので、1 の結果にはかなり満足している。

反省点はいろんなことを詰め込みすぎたので、もう少し精選することが必要かもしれない。その際、通事的な扱いだけでなく、ジャンルごとに扱うこと、例えば、詩、小説、劇などのような扱いをしたらより全体像がわかりやすく伝えられるかもしれない。次回は授業時間外学習を取入れた授業を構想したい。